

# ジェネリック医薬品を使ってみませんか

富士市国民健康保険(以下、国保)の1人あたり医療費は年々増加。

平成29年度の富士市国保の1人あたりの医療費は年間34万6千円。そのうち、調剤費が6万3千円で、約18%を占めます。

ジェネリック医薬品を上手に利用して、お薬代を節約してみませんか？

◆富士市国保の医療費(平成29年度)

(1人あたり約34万6千円)

約205億円

◆富士市国保の調剤費(平成29年度)

(1人あたり約6万3千円)

約38億円

医療費の  
18%!

◆富士市国保のジェネリック医薬品数量シェア

(平成31年3月処方分)

74.4%

※国保で処方されている医薬品に占めるジェネリック医薬品の割合(ただし、ジェネリック医薬品への切替可能医薬品のみで算出)

続々とジェネリックに切り替えています。



## 同封した通知の見方

平成〇〇年〇〇月〇〇日に処方された下記薬剤をジェネリック医薬品に変更した場合、少なくとも 2,360円 安くなる可能性があります。

処方実績		自己負担相当額(円)	ジェネリック医薬品に変更した場合に削減できる金額(円) (10円未満は切り捨てしています。)
医療機関・薬局名称	医薬品名		
〇〇〇薬局	△△△△△錠	1,848	1,640
□□□薬局	〇〇〇〇錠	818	520
△△薬局	□□□□□液	501	200
合計		3,167	2,360

1か月にかかった薬代を記載しています。  
(薬代のみのため、実際の支払い金額と異なる場合があります。)

ジェネリック医薬品に変更することによって削減できる金額の目安を記載しています。



## ジェネリック医薬品とは？

「ジェネリック医薬品(後発医薬品)」とは、新薬(先発医薬品)の特許期間が過ぎたあと、新薬と同じ有効成分・用法用量で、同等の効果を持つことを国から承認された薬のことです。製造過程や添加物などにより、効能や飲みやすさなどに違いがある場合があります。



## なぜ薬代が安くなるの？

新薬の開発には長い研究期間や多くの費用がかかります。ジェネリック医薬品は、新薬と同じ有効成分を使用していますが、開発費が抑えられるため、その分価格が安くなる場合があります。



## ジェネリック医薬品を使うには？

かかりつけの医師や、薬局の薬剤師に「ジェネリック医薬品で処方してください」と伝えましょう。

診察時に、医師に  
**ジェネリック**を使いたいと  
伝える。



薬局で薬剤師に、  
**ジェネリック**を使いたいと  
伝えて相談する。



薬剤師と一緒に、  
自分に合った  
**ジェネリック**医薬品を選ぶ。



※治療上の理由などで医師がジェネリック医薬品への変更が適さないと判断した場合は、使用できません。

なお、この通知は、医師のジェネリック医薬品への変更不可情報は加味しておりませんので、薬の記載があったとしてもジェネリック医薬品に変更できないこともあります。

ジェネリック医薬品への切り替えの意思を医療機関や薬局に伝えることができる「ジェネリック医薬品希望シール」などを配布しています。ご希望の方は富士市国保年金課までご連絡ください。

(連絡先 電話：55-2917 E-mail：ho-kokuho@div.city.fuji.shizuoka.jp)



## こども医療など、医療費助成を受けている方へ

こども医療や母子家庭等医療、重度心身障害者医療などの医療費助成を受けている場合も、ジェネリック医薬品を利用してみましょう。医療費助成にはみなさんの税金が投入されていますので、保険制度を安定して継続的に維持していくためにも、医療費全体の節約が重要になります。



## お問い合わせ

同封の通知に関するお問い合わせ、ジェネリック医薬品に関するご質問などありましたら下記コールセンターまでお電話ください。

ただし、回答内容については、「ジェネリック医薬品とはどのようなものか」、「この通知に記載されている薬剤（先発医薬品）の内容」など、ジェネリック医薬品の一般的なことのみで、個人的な相談、具体的な薬の内容に関するお答えはできません。薬の内容については、医師・薬剤師にお問い合わせください。

**「差額通知コールセンター」 0120-53-0006**

受付時間／平日（月～金）の午前9時から午後5時（土日祝日・年末年始は休業）

IP電話（050発信）からはつながりませんので、他の電話からおかけください。